

新考古覧

岡谷市史編さん室だより『新考古覧』No. 41

2026(令和8)年 9月

岡谷市教育委員会生涯学習課

岡谷市史編さん室 編集・発行

岡谷市中央町1-11-1 イルプラザ3F

TEL 0266-78-8455

WEB はこちら



新考古覧：古い事柄を顧みて、新しい問題を考察すること

～岡谷の歴史を深く思い、岡谷の今を重ね、岡谷の未来が拓けるような新しい市史をめざして～

シリーズ岡谷市史下巻以降のおもなできごと⑰ 観光【前編】

広報誌などから岡谷市史下巻（昭和57年刊行）以降の岡谷市政を中心に、テーマを設けてシリーズとして拾っています。今回から「観光」を2回にわたって順次お伝えします。

岡谷市の観光は、豊かな自然、歴史的な近代化産業遺産、そして独自の食文化が融合した点が大きな特色です。行政と地域が連携して育ててきた独自の観光の歴史を紹介いたします。

観光に関わる主な出来事（広報おかや等から）

西暦	和暦	月	出来事
1979	昭和54	2	塩尻峠に岡谷市観光物産館 県鳥獣保護普及センター開館
1983	昭和58	4	湊湖畔公園オープン
1983	昭和58	11	塩嶺公園の整備工事完了
1987	昭和62	8	鳥居平やまびこ公園全ての施設が完成
1989	平成 元	10	出早公園で長野県自然百選選定記念碑除幕
1993	平成 5	4	塩嶺王城パークラインが開通
1994	平成 6	7	湖畔公園に「いこいとやすらぎのゾーン」が開園
1996	平成 8	7	「塩嶺の小鳥のさえずり」が環境庁の “日本の音風景百選”に選ばれる
1997	平成 9	4	「うなぎのまち岡谷」の事業が本格的に始動
2001	平成13	3	岡谷市観光物産館を閉館
2001	平成13	12	「寒の土用丑の日」が商標登録される
2006	平成18	4	第1回出早公園かたくり祭り
2007	平成19	7	第1回由布姫あじさい祭り(小坂公園)
2007	平成19	11	旧山一林組製糸事務所などが 「近代化産業遺産群」に認定
2008	平成20	1	寒の土用丑の日10周年記念として 第1回「うなぎまつり」開催
2014	平成26	8	岡谷蚕糸博物館-シルクファクトおかや- リニューアルオープン
2019	令和 元	8	第50回「岡谷太鼓まつり」
2021	令和 3	10	JR 岡谷駅構内に観光案内所がオープン
2026	令和 8	5	塩嶺小鳥バス 73年目の運行【裏面】



岡谷市観光物産館



寒の土用丑の日キャンペーン



出早公園のカタクリ



小坂公園のアジサイ



岡谷蚕糸博物館



岡谷太鼓まつり

【写真について】

- ・ 岡谷市観光物産館：『岡谷ふるさと読本』岡谷市 S61 発行 p.61
- ・ 寒の土用丑の日キャンペーン：H30 岡谷市商業観光課撮影
(うなぎの画像は岡谷市観光協会 HP から)
- ・ 出早公園のカタクリ：岡谷市観光協会HPから
- ・ 小坂公園のアジサイ：R8 市史編さん室撮影
- ・ 岡谷蚕糸博物館：R8 市史編さん室撮影
- ・ 岡谷太鼓まつり：R5 岡谷市商業観光課撮影

塩嶺小鳥バス 全国に誇る岡谷市の観光イベント 今年で73年目！！

「塩嶺小鳥バス」は、昭和29(1954)年に始まった塩嶺「小鳥の森」での探鳥会です。コロナで中止の令和2年以外は毎年行われ今年で73年目。参加者は、JR 上諏訪駅前(西口)始発で下諏訪、岡谷を経由する「小鳥バス」に事前予約をして乗車できます。バスは今年も満席。岡谷市が育てた全国に誇る観光イベントです。



ハケ岳中信高原国定公園の一角にある塩嶺は、長野県の「小鳥の森」に指定されています。針葉樹と広葉樹の適度な混林は野鳥の生息に適し、これまでに120種以上の野鳥が確認されています。ヤマガラ・アカゲラなどの留鳥や、オオルリ・キビタキ・クロツグミなどの夏鳥が繁殖しています。 ～～♪♪

小鳥の声がきこえます！

岡谷市
観光協会 HP

案内をする林正敏さん(日本野鳥の会諏訪支部 川岸在住) 写真:R元年6月撮影 林さん提供

林正敏さんにお聞きしました！！

Q:林さんはなぜ鳥に興味をもったのですか？

A: 子どもの頃から自然が好きでした。特に小学校4年生の時に目撃した食物連鎖が鳥に興味をもつ大きなきっかけとなりました。アリの巣穴から出て飛び立った羽アリが目前でウスバキトンボに捕まり、さらにこのトンボが鳥に捕まる偶然を目撃したのです。鳥を見れば下層の自然が見えてきます。

参加記念のピンバッジ
(モズ) 林さん作画



Q: 塩嶺小鳥の森の魅力はなんですか？

A: 野鳥の生息に適している自然があるだけではありません。ここは風光明媚な自然と歴史をあわせもつ岡谷市にとって大切な場所なのです。

- 日本の三高峰(富士山・南アルプス北岳・北アルプス穂高岳)を同時に眺められる稀有な場所
- 歴史的な背景がある場所。中山道が通り、皇女和宮降嫁の一行が通過し、明治天皇、昭和天皇巡幸の折には御野立所となった。また戦前の一時期、峠を飛来通過する野鳥を、当時は合法だったかすみ網猟で捕獲する鳥屋場(とやば)があった。



【コラム】小鳥バスの始まりから今日まで

小鳥バスは、昭和29(1954)年4月に、県立御野立公園を活かす方法を検討していた岡谷市から参考意見を求められた諏訪探鳥会(現 日本野鳥の会諏訪支部)の小平萬榮さんの発案によります。同年に実現した第1回の「小鳥バス」に乗車した参加者は小平さんら関係者の他には2～3人でした。しかしその後、参加者は急増、満席となる人気事業として現在まで続いています。小鳥バスの主催は昭和44(1969)年の第25回まで日本野鳥の会諏訪支部が行い、翌年から市の主催事業になりました。案内役は日本野鳥の会諏訪支部の会員が行っています。※初代が小平萬榮さん(1～30回)、2代が林正敏さん(31～70回)、3代が西教生さん(71回～現在)

参考文献：『探鳥』第6号(小鳥バス25周年記念号)日本野鳥の会諏訪支部 昭和53年12月31日発行
『野鳥居』第6号(中西悟堂編)中西悟堂協会 平成25年6月10日発行
『小鳥バスと句碑』記念句碑建立委員会 昭和56年5月17日発行

(担当：専門職員 櫻井洋)